令和元年度　第１回香南市産業振興計画策定委員会　【議事録】

■日時　：令和元年 5 月 31 日（金）9:15 ～ 12:00

■場所　：天然色劇場　リハーサル室

■出席者：44 人（策定委員 17 人 ・市職員 20 人［市長含む］・傍聴 6 人・その他 1 人）

１．開催目的

・　分野別部会長をはじめ、有識者や産業関係団体の代表者に出席いただき、分野を超えた横断的な議論を交わす。

２．議　題

・　平成 30 年度の取組状況について

・　香南市産業振興計画 推進分野別部会からの報告

３．内　容

・　次第に沿って進行

（当委員会の委員長・副委員長を選出後、担当課及び各部会長より報告。
休憩をはさみ、議論を実施）

４．意見・提案等

◇ 開　会

◇ 市長挨拶

元号も変わり、新たな委員によりスタートする。皆様よろしくお願いします。
これまで様々な議論を交わし、その中から香南市独自の、また、特有の施策も出てきている。
本日の策定委員会には部会からの代表者もいる。部会が香南市産業振興の土台である。
この部会で侃々諤々議論されたことが本日の策定委員会にあがってきて、そして香南市の施策として、あるいは、半年後、1年後、数年後の予算付けの土台となる。
部会が土台となり、その上にこの策定員会があり、この委員会が香南市の産業振興をつかさどる場となる。
各部会の中で、もちろんそれ以外の場でも構わないので、それぞれの立場で感じることや施策案などを担当課・担当者にお伝えいただき、そのような形を継続的に続けていけたらと考えているので、よろしくお願いします。

◇ 各策定委員の自己紹介　（委員名簿参照）

◇ 委員長・副委員長選出　（事務局案により承認 ）

◇ 委員長ご挨拶および進行

- 昨年10月に行われた「合同部会」開催時にファシリテーターとして携わらせていただいたことが、香南市産業振興計画の関わりの始まりである。多くの方々にご参加いただき、観光面を軸にワークショップを行う中で「とても楽しそうに香南市のことを語る方々が多い」という印象を持っている。
- 厳しい地域の状況も理解している中で、「新しい香南市を作っていきたい」という意思を感じた経緯がある。
- 今年度までの第1期では、『しっかりとした「基礎」』を作り、来年度から始まる第2期、第3期に向けて進めていく必要がある。
- 令和という新しい時代となり、次の世代にどういった「香南市の産業振興」を託していくのかが大切な議題だと感じているのでよろしくお願いします。

◇ 事務局からの資料説明　【全資料】

- 資料１　「香南市産業振興計画について」にて事務局より説明。

（委員長補足）

- 資料1にあるとおり、我々は、「次代を担う若者が、地域で誇りと希望を持ち、産業の新たな担い手となって活力が保たれる香南市」、「地域住民が元気にいつまでも働くことのできる香南市」を目指して、しっかり作っていく必要がある。
- 参考資料4（香南市産業振興計画策定委員会設置条例）第2条第1項にあるとおり、「香南市産業振興計画の策定及び変更」をしていくことが求められていることをご理解いただきたい。

- 資料 2、3、参考資料各種を事務局より説明。（各資料参照のこと）

（委員長補足）

- 平成 27 年度より今年度までが第 1 期の期間であり、来年度から第 2 期が始まる。
  我々は「来期に向けてしっかり引き継いでいくこと」が求められる。

- 平成 30 年度の実績について皆様と議論を行い、今年度にその評価や改善点を評価し、各部会におろしていく必要がある。

- そのうえで、今年度議論していくことは、『第 2 期に向けて、どういった形で「香南市の産業振興計画」を作っていくか」をしっかり議論していきたい。

◇ 議　事

・ 平成 30 年度の取組状況について
・ 香南市産業振興計画 推進分野別部会からの報告

（委員長）

- 資料 2 には、各分野の数値目標や達成に向けた各取り組みが記載してある。
- 例えば、魚がいっぱい取れたということではなく、どのくらい、どのように、いつとれたのかというような、5W1H,2H の考えを組み入れながら確認していただくことが必要になる。
- 香南市は ABC 評価で示してある。（資料 2 の 1 頁参照）

■ 平成 30 年度の取組状況について【資料 2】

（※資料 2 の各部会の数値目標および紐づけられる取組について重点的に説明）

①農業　→②林業　（農林課）
③水産業 →④商工業 →⑤観光 →⑥ｻｲｸﾘﾝｸﾞ　（商工水産課）
⑦住宅　（建設課 ・住宅管財課・防災対策課･地域支援課 ）

◆ 平成 30 年度の取組状況について（抜粋）

（農業分野）

・ 新規就農者の獲得に向けて様々な取組を実施したが、就農に向けて安易に考えている方も多い現状がある。
・ 新規就農に向けた補助制度は多く、「本気で新規就農を目指す方」にはサポートを行うとともに、各ハード整備等を行っていく。
・ 各フェアなどに参加し、香南市内外からの新規就農者確保に努めていく。

（林業分野）

・　森林境界明確化については、以前より所有者の明確化が問題となっているなど、事業計画どおりに進めることができていない。

・　第 1 期の最終数値目標には達することが極めて困難な状況であるが、所有者の明確化を進め、森林境界明確化を進めていくことは、『森林整備を進めるための前提事業』であることから、引き続き前進させるためにどうすればいいかも含め、取り組んでいく。

・　第 2 期計画に向けて、目標設定の変更が求められていることを加味しながら、今年度は進める。

※　農業・林業分野とも、第 1 期香南市産業振興計画の実行・確認と、第 2 期香南市産業振興の策定に向けた取組を同時並行で進めていくことから、皆様からのご意見やご指導をお願いしたい

（水産業分野）

・　水産業部会の数値目標は「沿岸漁業総生産量」となっており、平成 30 年度は 1,200tの目標値に対して、1,119tであり、約 93％の達成率により、B 評価となっている。

・　平成 29 年度までは手結・赤岡・吉川の漁協の水揚げデータを基準としていたが、H30 年度の部会において「吉川地区の企業 1 社が、自社で水揚げしてきたものは吉川漁港の水揚げになることから、吉川漁港の水揚げ量に反映させて良いのではないか」とのご意見をいただき、H30 年度は、民間企業 1 社の数量を含めている。（※ 既存 3 港の H30 年度　水揚げ量 1,058t）

・　数値目標の達成に向けた取り組みとして、ハード整備事業は、ほぼ予定どおりに取り組めているが、「水産業の振興」の『新規漁業者の確保』について、ここ数年実績がない状況が続いている。

・　本市の主要魚種であるシイラ・シラスの漁業形態では、複数人または複数隻での操業となるため、漁師さんを目指したい方がいても、1 人で操業することはできず、新規漁業就業者の確保がきわめて難しいことが課題になっている。

こうした状況の中、本年 4 月 1 日に就業希望者への総合的な支援を実施する「（一社）高知県漁業就業支援センター」が県庁の水産振興部内へ設立されたことを契機に、市の方から支援センターへアプローチをおこなった結果、次回から本市の水産業部会へ、新たに部会員として支援センターの専任職員の方が参加していただける事になった。

今後も、この支援センターと一層の連携を図り、漁業者の所得向上や新規就業者の確保に向けて、取り組んで行きたいと考えている。

（商工業分野）

・　商工業部会の数値目標は、「製造品出荷額 500 億円」となっており、H30 年度の実績は 397 億円と達成率 79.4%でＢ評価となっている。

・　実績値は平成 30 年工業統計の調査結果に基づくもので、平成 29 年分（H29.1.1～H29.12.31）の製造品出荷額となっている。

・　令和元年度の実績値となる平成 31 年工業統計の数値は、昨年 5 月末に閉鎖したルネサス高知工場の製造品出荷額が大きく影響し、減少することが懸念される。

・　現在の数値目標だが、商業・工業ともに一緒の数値となっており、大半が工業分野における製造業を営む事業所の製造品出荷額の数字となっている。

部会としては工業部会、商業部会と別々にあるので、次期計画に向けて「商業部会としての数値目標」

を新たに策定するようにしたいと考えている。

- 工業部会では、「1. 香南工業団地整備事業」では、残り 1 区画となっていたが、昨年 6 月に完売。今後は操業開始に向けて必要な人員を確保するために、企業と共催で会社説明会・面接会を開催し、雇用の促進を進めていく。
- 「3-1 ルネサス高知工場」は、昨年 9 月に丸三産業株式会社に譲渡契約が締結され、11 月に県、市、ハローワークと共催で会社説明会・面接会を開催し、必要な人員を確保する事ができた。現在は、本年 6 月からの一部操業開始、12 月からのフル操業開始に向けて、準備を進めている。
- 「3-2 川谷刈谷工場用地（旧ルネサスの西側）」の分譲については、本年 3 月に県で選定委員会が開催され、現在、県が申し込み企業との最終の調整を行っている。
- 「4. 企業立地優遇制度の策定」は、若年層にニーズの高い事務系職種の IT 企業の誘致を推進するため、空き店舗を活用した商店街の活性化や、移住の促進にも繋がる助成制度を策定。本年度は、包括連携協定を締結したイシン(株)との連携により首都圏企業への誘致活動を行い、2 社の誘致に向けて積極的に取り組んでいく。

  今後も、企業訪問を強化することで、現状や課題を把握し、ニーズに合った事業紹介を行うとともに、雇用の促進と生産性の向上に繋がる支援制度の実施に向けて、より一層取り組んでいきたい。
- 商業部会では、新規の取組としては「２魅力のある商業地・商店街づくり」として香南カーニバル（複数店舗を飲み歩くイベント）を昨年 11 月 19 日から 25 日まで香南市内の飲食店など 45 店舗により開催された。

  目標値であるチケット 500 セットを上回る 537 セットを販売し、香南市内外より多くの方に市内の飲食店などを知っていただく機会づくりの提供ができたものと考えている。
- 空き店舗の対策として、4-1「香南市空き店舗対策事業費補助金」はＣ評価だが、平成 28 年の事業開始以降、初めて実績があった事や、また、商工会さんの取組になるが、4-2 の「事業継承診断の実施」では、将来の事業継承に対する考えなどを調査する取組が開始されるなど、これまで停滞していた部門が少しずつではあるが、ようやく動き始めている。

  今後も、香南市商工会などの関係団体と連携を図り、商業の発展に向けて、より一層取り組んでいきたい。

（観光分野）

- 観光部会の数値目標は、対象 11 施設における「観光施設入込客数 」となっており、平成 30 年度は 120 万人の目標値に対して、106.2 万人であり、約 88.5％の達成率により、B 評価。
- 「1.三宝山エリア」の取り組みは、当初はお城のある山頂の開発のみであったが、現状では山頂からふもとまでを一体的に開発していく事になっている。
- 「2.ヤ・シィパーク周辺地域の活性化」は、本年 2 月から開始されている 高知県自然・体験観光キャンペーンへの取組を進めるように、ヤ・シィパークの再開発を目指し、県と連携し、ヤ・シィパークの有効活用に向けたグランドデザイン（基本構想）を本年 3 月に策定。本年度からは、そのグランドデザインを基にした再整備について、なるだけ早い具現化に向けた取り組みを、県とともに進めていく。
- 新たな取組として、「1外国人観光客の受け入れ体制づくり」を始めており、H30 年度は市内の飲食店やホテル等の事業者を対象とした「外国人観光客受入研修」を、県と連携して開催。本年度からは、れんけいこうち高知広域都市圏事務局と連携し、高知新港へ来ている大型客船の観光客の受け入れを行い、観光客数並びに観光消費額の増加に向けた取り組みを、より一層図っていきたい。

（サイクリング分野）

・　サイクリング専門委員会の数値目標は、「レンタサイクルの利用者数」となっており、2,100 人の目標値に対して、2,156 人でA評価。
・　取り組み事例にはないが、H30 年度からサイクリングの取組の推進に向けて「地域おこし協力隊」を 1 名雇用し、「2.サイクリングに対する PR」のための推進団体の設立目標に対し、その協力隊員を中心に香南市内にサイクリングチーム（Maze-Cle）が設立されたことや、その団体からの新たな提案やイベントの実施などが行われたことで、自転車をPRする機会が増加したことが、目標値の達成に繋がったものと考える。
・　本年度は、本市が加入している「自転車を活用したまちづくりを推進する全国市区町村長の会」の、四国ブロック会議が本市で開催されますので、こうした自治体同士での情報交換や共同の取り組みを行いながら、「健康と観光」をキーワードに、サイクリングの取り組みを更に進めていきたい。

（住宅分野）

・　資料のとおり。

■　香南市産業振興計画 推進分野別部会からの報告　【資料 3】

①　農業　→　②林業 → ③水産業 → ④商業 → ⑤工業 → ⑥観光及びサイクリング

◆　各部会の報告（抜粋）

（農業部会）　部会長より報告

・　高知暮らしフェアなどに参加し、香南市外の方を対象としたアプローチを展開しているが、なかなか成果に繋がっていない現状がある。
・　新規就農には多額の設備投資が必要であり、借り入れには農業の実績が必要とされるケースが多いことから、研修用ハウスを建設した経緯がある。このハウスは非常に丈夫で立派なものである。ぜひご覧いただきたいし、良い取組の先進事例にしていきたい。
・　新規就農者の確保では、相談はあるものの実績に至らない経緯があるが、地域おこし協力隊という形で農業に従事する方の採用ができている。
・　農業は肉体労働や低所得であるイメージが強いことがネックになっている。
・　国や県などが進めている「スマート農業」の考え方は現場の考え方とは乖離している。
現場のスマート農業としては、これまでの「3K」というマイナスイメージの言葉から、『5K（かっこよく・きれいで・暮らしていける・健康的な・子育てのできる）』の農業を提案していきたいと考えている。
・　就農のあり方も変わってきており、東北の方では、若い女性が昔の作業着とは違い、ピンクの作業着でトラクターを運転している。この作業着は大手アウトドアメーカーが作っている。
・　大手アウトドアメーカーではこのような作業着など、農業関係に力を入れている経緯もあるので、このようなファッショナブルなものも取り入れ、「きれいな恰好で、稼げる農業」を推進していくことで、新規就農者の確保などに繋げていくべきではないかと考えている。
・　担い手センターなどで、就農に向けて学ぶ経緯はあるが、その後の「経営」に対する知識不足が見

られる。食べていけるためには経営の学びを強化していく必要があると感じている。

- 休耕地が増加傾向にある。後継者不足もあるが、多くはハード整備が整っていない場所であり、そのような土地から休耕地になっていく。ハード整備も充実させ、次の方に貸せるような取組として捉えて進めていくことも必要である。
- 様々な取組を行っている。　『新規就農と言えば香南市』という合言葉を実現させるために今後も進めていきたい。、

（林業部会）　部会長より報告

- 数値目標達成に向けては非常に厳しい状況。
- 森林境界明確化にむけては、境界所有者の明確が必要であるが、登記をしていないなど所有者を探すまでに非常に時間を要すケースが多い。行政と連携して割り出す工夫を平成 30 年度より行っているが、実績としてはまだまだ乏しい。
- 境界所有者が複数にまたぐ場合、全員の同意が必要であり、ご理解いただけない方がいる場合は進めることができない場合もあり事業が遅れているケースがある。
- 平成 30 年度は豪雨が続き、現場が崩れるなど、予定どおり進めることができなかった。
- 現在建設中の香南市の新庁舎には、「香南市有林」が一部活用される。
- 香南市産のヒノキは色味もあり質が良く、「品がある」ということで販売される。
  『香南市には良い木がある』という推進と、それを活かす間伐を進められるように今後も取り組んでいく。

（水産業部会）　部会長代理出席者より報告

- これ以上生産量を増やすことは見込めないのが現状であり、今後は直接漁業者の所得向上に繋がる生産額を目標とする必要がある。
- そのためには水産物の付加価値をつけて単価を上げていく必要がある。
- 水産業において生産量は、特に自然条件に左右されるため目標にすることは難しい。
- 生産量をこれ以上増やすことは難しい。単純に経営体を増やすだけでは増えない。
- 単価をあげるためには付加価値をつけていく必要がある。
- 生産量より生産額が増えることが漁業者の所得向上に繋がる。生産量が少なく、生産額が多いのは単価がいいことであり、それが理想である。
- 生産量が増えても販売先がないと意味が無い。
- 目標値を生産額へ見直しを実施し、また、生産額を延ばしていくためには市内水産物のブランド化が必要であり、そのためには観光協会や漁業者、漁協、香南市など、関係機関と連携して市をあげての取り組みを実施していく必要がある。
- 香南市の水産物の認知度に繋がる取組を実施し、魚価を上げていくことが求められる。そのことが「漁業は稼げる」事に繋がる。このような取組の先には「次代を担う後継者」の確保に繋がると考えられる。
- 今回の部会では、今後の方向性が見えてきたので、第 2 期に向けて今後も取り組んでいく。

（工業部会）　部会長より報告

・　香我美町立地企業交流会及び香南市ものづくり会について、合同開催により参加企業の増加を図るとともに、工業会との連携を行うことで事業案内や情報交換を充実させた懇談会となるように取り組むこと。また、企業間の交流を深めるべく、開催回数の増加の検討をとの意見がある。
・　香南市未来人材育成奨学金返還助成事業については、４年間で実績がゼロであり、要綱を改正し、対象業種を拡充したとしても目標値の10 件は現実的に厳しいように感じる。目標値を下げて様子を見た方がよいのではないかとの意見がある。
・　第１回部会では前年度実績と今年度の取組に対するご意見をいただくに留まり、第２期産業振興計画に向けての意見交換には至らなかった。今後は第２期産業振興計画に向けての意見交流を促し、方向性を定めていくことを確認している。
・　目標値となる製造品出荷額については、平成30 年5 月末で工場を閉鎖したルネサス高知工場の製造品出荷額等が大きく影響し、減少が予想されるが、工業統計による数値の反映は令和2 年度以降となるため、引き続き既存企業の生産性向上に繋がる支援と、川谷刈谷工場用地への早期分譲に努めるとともに、新たに旧ルネサス東駐車場用地を工場用地として分譲することで、製造品出荷額等500 億円以上を目指す。また、事務系企業誘致を加速するべく、空き店舗等の物件調査と誘致活動を継続し、早期の企業立地に繋がる取組を進めることで、商店街の活性化や移住・UIJ ターンの促進、地元若者の雇用の場確保を図る。

（商業部会）　部会長より報告

・　香南カーニバルの実績については、チケット、参加店舗も予定以上にあったことから、一定の成功を収めた。また、４割が香南市外の方であったことから、市内へ足を運んでもらうきっかけづくりに繋がった。このような取組を行うくことで、市内の商工業者にもPRとなり、市内で飲食店などを行うことを検討している方へのアプローチにも繋げていきたい。
・　商工会ではパソコンなど利用を推進しているが、更新が止まってしまうケースもあり、それがマイナスイメージに繋がる傾向があるとの意見をいただいている。
今後はSNSに特化した推進を検討している。
・　空き店舗対策としては、チャレンジショップの意見がある。高知市愛宕商店街では、昼間はシャッターが閉まっているが、夜は開いている傾向もある。他市町村の事例を知るなど、情報の収集を強化することが求められており、視察などを実施していく考えがある。
・　香南市外の方、特に移住を検討している方で、なにか商売を考えている場合、高知県への問い合わせが多い。そこから、各市町村を紹介する流れと伺っている。
移住検討者は、視察にかける時間が限られ、その日のうちに「住む場所」「出店候補地」また、それに繋がる「関係人口」と接点を持ちたがる傾向がある。日高村の場合、その関係を1日で築ける関係性を行政、商工会、関係機関と構築されており、移住者の新規出店も含め増えてきていたことから、商業の発展の観点からも、このような関係性の強化が求められている。
・　市内ではキャッシュレス対応などが非常に遅れている。このような先進的な取組を進めていくことに力を入れていくことが求められる。
・　数値目標が工業と一緒になっていることから、商業分野独自の目標値を今年度作り上げるべく取り組んでいく。

（観光部会・サイクリング専門委員会）　観光部会長より報告

【観光分野】

・　昨年度のＢ評価は、新緑シーズンの５月のゴールデンウィークに天候が悪かったことや、夏休みの行楽・海水浴シーズンである７月８月の豪雨に加え、天候が良い日でも気温が高くなりすぎてしまうなどの異常気象により、香南市の屋外のレジャーを楽しめるチャンスが少なかったことも、各施設への入込客数が伸びなかった原因。今年も５月から夏日などの異常気象の日もありますが、天候に影響されない安定した集客ができるように、気温が落ち着く夜間の楽しみ方や、天候不良の際でも屋内施設に切り替えて楽しめるような取り組みや、既存の取組のさらなる強化を行っていく。

・　天候に恵まれなくても、また来たいと思っていただけるような楽しい思い出や体験を通じてリピーターを増やし、また香南市にお越しになったことがない新規顧客も、高知龍馬空港や、土佐くろしお鉄道ごめん・なはり線などのアクセスなども活かしたPRにも力を入れていきたい。

・　部会では、SNS を使った情報発信などもより強化していくべきだとの意見が多く出た。SNS から情報を得て、行き先を決めている若年層を意識したInstagramなどの取組を行うことで、お越しいただいたお客様自身が、感動体験を共有・発信してくれる、発信者にもなるので、今後は若年層の視点や反応なども敏感に感じていきたい。

・　Instagramの活用や、ホームページの観光情報の掲載内容等が、見やすい状態であるか、欲しい情報が掲載されているか、なども踏まえて、観光分野としての発信方法等についても引き続き、協議を続けていくことを確認しました。

【サイクリング専門委員会】

・　観光客誘致と香南市のPRにつなげられるイベントづくり、サイクリスト用の折りたたみパンフレットの作成、動画を活用したPRや、自転車の乗り方の安全講習やヘルメット着用率の向上、健康への取組、タンデム自転車のパイロット育成、そしてブルーラインや新たなサイクリングコースの作成など、とても多岐にわたる意見やアイデア、取組などが出ている。

・　全て重要な事項ではあるが、すべて同時進行は難しい面があることから、香南市の目指すサイクリング像をしっかりと固め、どの分野の何をどのような効果をもたらすために活動していくのかを見据えながら、より協議を深めていく。

・　香南市のサイクリングをより広い世代の方にもわかりやすくするためにも、サイクリング事業を進めるパッケージとして、キャッチフレーズを決めて、より印象的に取組が周知されやすいようにしていく。そして、大きな方向性としては、香南市のサイクリングは「観光」と「健康づくり」の２本柱で取り組んでいく。

・　観光と健康を自転車でつなぎ、観光部会とサイクリング専門委員会もより連携した取り組みができるように、この１年取り組んでいく。

（委員長）

・　先ほどの報告を受けてのご意見を、部会委員以外の委員の皆様からご意見をいただく。

・　そのうえで、共有する課題や香南市の強みが見えているので、そのことについて議論する。

・　最後に、部会同士の連携等を議論の題材にしたいと考えている。

◇ 意見交換

（委員長）

・　共通の課題については、どの分野においても「担い手不足」がキーワードになっていると考える。まず、「人材確保」「担い手」という部分について、各部会長よりご意見をいただきたい。

（委員）

・　林業分野では、担い手確保の経緯から、香美市土佐山田町に「高知県立林業大学校」が平成 30 年度に本格的に開校された経緯がある。
　毎年 30 人ほどが卒業していき、現場に参画する方や設計士となっていく。
　ただし、募集 80 人枠に 30 人程度という現実がある。、
・　主流である CLT 工法を用いる建築物が増えてきていることから、そのような技術習得をして、現場に人材が増えていくことはうれしいことである。
・　県内には「緑の雇用」のような取組もあり、行政では地域おこし協力隊を導入している部分もある。

（委員長）

・　林業については、林業大学校の整備も含め進んでいる部分が見えている。農業・水産業の実態はどのようなものか。先ほどの報告では、「10 名の新規就農相談はあったが、しっかりとした計画がない方もいることから、本気の就農を検討している方を選び対応している」とあった。生活をしていくには覚悟をもって取り組むことが望まれるし、行政や地域、各団体としても、「ほしい人材」をマッチングしていくことが必要である。

（委員）

・　新しい農業者という視点で考えれば、事業を拡大していく場合、「労働力の確保（雇手の確保）」が問題となっている。
　JA もさまざまな取組を進めている。
・　「外国人の雇用」について、よく「賃金が安く雇用できる」ということが言われているが、決してそうではなく、むしろ経費はそれ以上にかさむ傾向にある。

（委員代理）

・　「労働力の確保」は喫緊の課題。対応を検討している。
・　平成 31 年 1 月 1 日より合併により JA 土佐香美から JA 高知県となった。
　この中で、「農業所得増大対策室」という部署ができ、圏域の雇用問題への対策を含めた取組を図っている。また、香美地区としても併せて考えていく。
・　新規就農者や担い手への助成等については、香南市は非常に多く取り扱っていただいている。
　この取り組みを活かしつつ、JA 高知県香美地区としては、生産の拡大に向けて、担い手対策として「サポート事業」に力を入れていきたいと考えている。

（委員長）

・　農業分野については、国、県、市、JA 高知県を含め様々なサポート体制や事業が展開されている。

・　水産業部会のご報告の中では、目標を「量から額」へと変化させるとあった。
人材確保というキーワードのうえでは、「求められる人材像」が変わってくるのではないかと感じている。
農・林分野より先に目標値を変えていくとした場合、就業者だけではなく、漁業従事者にとっても「生活」に関わるところだと感じる。
例えば、これまでの漁師さんが「ただ漁をして魚を取ってくる」だけだとした場合、これから「求められる人材像」はどう変わっていくと推測されるか。

（委員代理）
・　水産業の分野では、事務局より説明もあったが、平成 31 年 4 月 1 日より就業希望者への総合的な支援を実施する「（一社）高知県漁業就業支援センター」が県庁の水産振興部内へ設立されている。この中では、新たに、漁師さんを雇用する企業経営型の企業にもサポートをすることとなっており、漁業者確保の強化が図られている。
・　求められる今後の人材としては、例で紹介された「漁だけ」という方がいるとするならば、その型から、『自分たちで加工していく人材』がこれから求められるのではないかと感じている。
・　香南市でも漁から加工まで行っている企業もあるが、このような経営体も必要ではないかと感じている。

（委員長）
・　現状のままでは、そこまで行うのは難しいのではないかと報告を受けて感じている部分もあるが、活かしていくのであれば「商業分野」を活用していく必要があると考える。

（委員）
・　自身はお菓子製造に携わり、商業活動を行っているが、親が農業に従事していることから、農業の現場を見てきた意見として、「担い手」は確かに問題である。
・　「農業とはこういうことである。」というのを見せていくべき。
実際は肉体労働であり、土まみれになり、３K の部分もあるが、先ほどの「５K」の部分を見せることもできると感じる。そういうことも含めて「農業」だと思うので、それをわかってもらえるように、農業関係者以外の方に伝えていく必要があると感じている。

（委員長）
・　農業のイメージの問題については、部会の報告でもあったが、これを改善させていくためにはどのような取組が必要か。
・　「農業 ＝ 肉体労働　＝ 男性」のイメージが先行する場合もあるがいかがか。

（委員）
・　「農業 ＝ 男性」というイメージはない。女性が担うところが多々ある。
・　農業委員会としては、耕作放棄地や農地が今後どうなっていくかを考えていかないといけない。そのためには、「担い手」問題が切っても切れないのが現状。
・　「新規就農者　＝　若い世代」というイメージのほうが強いのではないか。しかし、新規就農者としては、例えば退職をされた方々が第 2 の人生として従事するケースもある。

この方々がいきなり大きく展開して農業を行うケースは少ない。
このような「小さな担い手」をどうフォローするか、または、フォローすることで、「小さな商品」を道の駅などで販売することはできる。
道の駅や直販所では、様々な品種を求めている傾向にあることから、既存の農家の担い手の考えもそうだが、新たな就業者の確保の考えをシフトする方法もあると考える。
それと同時に休耕田問題の解消を検討していく等、「農業分野内」でもリンクさせて検討していくことはできるのではないか。

（委員長）
・ 農業のイメージもあるが、「農業の担い手のイメージ」も頭でっかちになりがちな部分がある。
多様な活用のあり方を農業関係者からの発信を行う必要がある。
その考えが受け入れられる仕組みづくりが必要。地域就農という考えとおっしゃられた「小さな農業」を組み合わせていくことを検討していただきたい。

・ 先ほど水産業の意見でもあったが、「付加価値をつけていく」というところで、農林水産業と商業の関係性の話をしたが、その点についてどう考えるか。

（委員）
・ 商業もそうだが、すべてが「観光」という分野でリンクしていると考えている。
商工会では昨年「香南カーニバル」の実施にこぎつけた経緯もあり、積極的な企画を進めていきたいと考えている。

（委員長）
・ 香南カーニバルもそうだが、香南市の地のものがイベント等で PR できる。
・ 「担い手」と「付加価値」というところがどのように商業と一緒に進められるのかを検討してはどうか。
各々の分野で取組は進めているであろうが、策定委員会の中では、農林水産業分野と商業分野の取組の関連性というものをもう少し考えていくことで、「担い手」「付加価値」の取組に結びつくと感じている。
漁業だけでは「付加価値化」が難しいのであれば、行き詰まるのであれば、商業分野がパートナーになっていくことで仕組みとして作っていければよいと感じている。

・ 香南市で「付加価値を上げていくこと」を考えるとき、経営指導をされている身から地域の状況を教えていただきたい。

（委員）
・ 香南市商工会には、多くはないが 1 次産業従事者が会員としており、その中には「6 次産業化」を図り、都会などに販売をしている方々がいる。また、ネット販売に特化している方もいる。
・ 商工会として「会員」向けに事例の PR を行うことを検討しているが、費用の関係により多く行えていない状況。
・ 一次産業従事者が 6 次産業化に向けて検討している場合は、商工会会員外であっても相談は受けられ

るので、経営指導員をぜひ活用していただきたい。

（委員長）

・　各分野では「独自に進められている方」もいることがわかりました。
当計画策定委員会では、縦割りで作られている部分があるので、「横断的な中身」というものを目玉に作り上げていく必要がある。

（委員長）

・　工業分野は、香南市の取組については先ほどのご報告から見えてきているが、高知県全体としての動向をお教え願いたい。

（委員）

・　高知県の製造品出荷額で言えば最近は微増傾向。製紙関係が順調であることなどが考えられる。
・　香南市の場合は、県と一緒に進めてきた「香南工業団地」があるが、こちらも完売し、これから順調に推移していくと思われる。また、高知県としても大きな動きであった旧ルネサス工場跡地には新たな企業が入りましたし、川谷刈谷工業用地についても県の方で最終的な調整段階の状況である。

（委員長）

・　香南市で企業活動を進めていくうえでの「香南市の特徴・魅力」や社員の方々が暮らすなどの観点から見える特徴などをお教えいただけないか。

（委員）

・　物流を考えた場合、不利かと思われたが、空港が近いことや県外からのアクセスも良いことから、観光客向けの PR もしやすい環境にある。
・　弊社の取組になるが、「工場見学」の受入れなども積極的に行っている。地元の小中学校などから問い合わせがある。夏休みの自由研究などにも活用していただきたい。
このように、自社の取組を積極的に取り組める環境である。
また、各大学や職業能力開発短期大学校など、学びの場も市内や近隣市町村にありますので、そのようなところにアプローチすることで人材の確保も見えるのではないかと考えられることから、今後も新たな企業の進出の可能性があるのではないかと感じている。
また、空き店舗、空き家の対策として、「IT 企業誘致」の取組を進めているが、そのような企業が来た際には、違った視点で「香南市の魅力」を発信してくれるのではないかと考えている。

（委員長）

・　地域の魅力・強みというのは各分野で発信されている。しかし、**「香南市の産業の強み」**という部分をはたして PR できているのだろうか。
策定委員会の中では共有していかなければならない。

・　香南市の経営者や住民の方と関わることが多い金融機関として、香南市の産業についての強み等があればお教えいただきたい。

（委員）

・　香南市の強みや付加価値という観点では、事業所を見た場合、卸し、小売り、製造業、娯楽業、宿泊、サービス業などが、数だけ見れば半数以上にあたる。
・　ものべみらいという会社を立ち上げ、観光資源を活かした活動をということで、アクセスを考えると高知新港、空港からも近く、交通面の立地の良さもある。
香南市というよりは「物部川流域」で考えると資源は多いと感じている。
・　高知新港に来るインバウンド客は四国内で 2 位という新聞記事があった。クルーズ船観光客は船内で寝泊まりをしており、寄港時にお金を落としている。
高知市内では卸団地内にその時だけの「免税店」を開くなどの対応をしていることも聞いてる。
・　キャッシュレスの対応の話があったが、インバウンドを対象としていく場合の指数を紹介すると、8 割がアジア圏の方々である。
・　アジア圏のインバウンド観光客は平均で 15 万円の経済消費を行っている。そのうち、クルーズ船利用者の平均は 4 万 4 千円程度。
・　欧米の観光客は長期滞在型の観光を好む傾向があり、宿泊拠点を置いて観光する傾向があり、宿泊にお金を落としていく。
・　商業部会ではこのような方をターゲットとしていくのが求められると思う。また、物部川流域でも宿泊先がありますので、観光資源の活用を含めて推進していくべきではないか。
・　また、アジア圏が多い現状を欧米の方々をターゲットにしていく動きを強めていくことが産業振興に繋がっていくのではないか。

（委員長）

・　資料 1 にあるとおり、「外貨」を稼いでいくターゲットをどこに定めていくか。また、各分野でターゲットは違うだろうが、相手先が果たして今見えているかというご指摘の意味もあると感じている。

・　農業分野から順に話を伺っている中で、「香南市のイメージ」「働く環境」「仕事の種類」だけではなく、働き方も多様だし担い手像も多様であることが見えてきた。
・　各分野で上記のことを認識しているイメージだが、これが果たして、『香南市外からの方に見えているのか』という部分を確認していきたい。
香南市の、高知県全体を含めて、『産業という視点』で見たときのイメージというのはどのようなものか。
香南市の強み・弱みを加味してどのように見えているのかお教えいただきたい。

（委員）

・　年間約 2,000 社のいわゆるベンチャー企業経営者様と一緒に仕事をさせていただいている。ベンチャー企業とは、簡単に言うと「急成長を目指している会社である」
話はずれるかもしれないが、2013 年以降景気が良くなり、経営環境が良くなってきていることから、ベンチャー企業に回る資金が激増している。
ただし、出資をうけるということは上場などを含め、出口を求められるわけであり、2013 年から 6 年が経過しているということは、いよいよ佳境が迫っている。
急成長を目指していることから、事業投資はどんどん行っているが、首都圏の課題点は『採用』である。

なので、ベンチャー企業の他地域に進出する目的はイコール『採用の戦略』である。

・　昨年 7 月に 6 社とともに、こちらに視察に伺った際、香南市、高知県というわけではなく、「誘致に係る優遇の取り組んでいること」に驚かれ、喜ばれていた経緯がある。
企業側としては、このような取組・情報があまりなく、企業進出については、経営者同士の口コミから土地の情報などを得て、進出が始まるケースが多い。
このことから、香南市で『採用がしっかりできる』のであれば、進出をするうえで１つ上位になる。
空き店舗物件の問題もあるが、それ以上に「採用、雇用環境の難易度のクリア」が求められている。
企業誘致を考えた場合、これらのことが最終的な企業進出のキーとなる。

（委員長）
・　企業立地に際しても、その土地で一緒に働ける方がいるかということ。
企業側がその地域を見る場合、支援策が多くあることについては安心感もあるが、採用については、譲れないキーとなるものであるということ。

・　これまで、「担い手」「人材確保」というキーワードで話を進めてきたが、私が策定委員会の資料を事前に見させていただき、本日各部会から報告を聞く中で感じたことは、「各分野が産業ごとに、それぞれ自分たちの特徴を PR している部分もあるが、『香南市の産業』という全体的なイメージを、働き方も含めて、PR や情報発信ができていないのではないか」ということを感じた。
香南市役所として「香南市の情報発信」はしていることは十分に承知しているが、『香南市の産業』という視点で、その地域がどういうところで、どういう働き方があって、このようなかっこいい農業を行っているんだということを、ほかの産業と含めて、うまく PR できていないのではないかと感じている。
その部分では、「観光」というのは、外部に魅力を伝える大切な分野である。
香南市の産業のイメージであったり、様々な働き方をどのように伝えているのか、また伝えていくべきかについて伺いたい。

（委員）
・　香南市はおっしゃるとおり、取り組みが若干遅れていた。
「移住施策」については、『香南住む一ず』という取組を地域支援課が力を入れており、香南市の産業や働き方の紹介、香南市に移住してきた方がどのような暮らしを、働き方をしているという PR をここ数年でやり始めた状況。
皆様からの意見を伺っている中でこれからは SNS ということですが、良い部分悪い部分もあると思うので、整理をしながら今後利用していくのであれば積極的に取り組んでいくべきではないか。

（委員長）
・　既に取り組んでいる事例もあることから、PR については、策定委員会からもどういう情報を出すべきか、外部の方はどのようなことを求めているかについて考えていただき、各分野の推進だけではなく、『香南市の産業』について推進していく流れをチームになって作っていきたい。

・　ここからは『観光』というテーマで進めていく。
香南市の観光という産業においては『担い手』という観点はもしかしたら意味合いが違うかもしれないが、観光の担い手、担う人たちというのはどういった人材像でしょうか。求められる人材像も含めてご意見をいただきたい。

（委員）
・　広域観光という視点で考えていくと、「担い手」というのは関連性がないとは思わない。
・　観光という産業を「担い手の育成」に活用していただきたいと考えている。
先ほど、担い手を育成する場所として林業大学校のお話もあったが、そこに通うことを選択する人には知識が必要となる。
この知識を与えるところは 2 つあると考えており、1 つは地域の学校などの教育と、もう 1 つはその地域を知らない外部の方には、「観光」の分野が担うものと考えている。
・　「観光 ＝ 外貨を稼ぐ」取組だけで「地域の観光を進める」場合もあるだろうが、香南市産業振興計画が目指す「地域の活性化」や「その先の目標」に向けてはそぐわないと考える。
ですから、観光分野におきましても、香南市産業振興計画が目指す方向性の一部として活用していただきたいと考えている。
具体的な事例として、南国市で夏の暑い時期のモニターツアーを実施する。
ハウスにも入りますし、露地野菜の世話などの体験もする。
今までの体験ツアーは「涼しい時期の収穫」を体験させる「収穫の体験」が多かったが、『実際の農業の体験』を商品化するために、南国市の各担当課、高知県等に協力を得て商品化を進めている。
このように、いいところだけではなく、本来の農業体験を伝えるためには担い手が多く必要である。

（委員長）
・　先ほどの話の中で、「PR　＝ インターネット、SNS による発信」と決め込んでいた部分に気づかせていただいた。
・　観光という分野は『産業そのものを「体験」を通じて PR することができる』ということ。
・　観光分野はただ単に「外貨を稼ぐもの」ではなく、『地域の発信や教育の意味合いを持つ分野』だということを学ばせていただいたが、香南市の観光の現状についてお教えいただけないか。

（委員）
・　「観光＝情報発信」と捉えられている傾向もあるが、そうではなく、中身の充実を図るべきで、観光客の誘致に繋げる必要がある。
・　岡林委員がおっしゃったように、観光客は香南市のみに来たいわけではないので、近隣と連携して広域で考えていかなければならない。点ではなく線でつないで面で推し進めていく必要がある。

・　以前より唱えている部分であるが、産業振興を考えた場合、各分野の縦割りではなく、本日もお話があったが、各分野が横ぐしで繋がっていることが絶対に必要である。

・　観光分野を考えた場合、「教育」が必要であると考えている。
香南市の場合、「生涯学習課」がスポーツを考える部署である。『スポーツ観光』を香南市としても考えていくべきであるし、実際、ヨットなどを活用した『マリンスポーツ」や「塩の道トレイルラン」

等が実施されている経緯もある。
このような取組で成功した事例が県内にもあるので、香南市には県の施設だが青少年センターなどもあるし、そのような活用を進め、スポーツ面を強化して、観光誘致に繋げてもらいたい。
また、観光部会や本日の策定委員会の事務局についても、教育委員会にはなるが生涯学習課の参加を促し、検討していくことなどが求められると考える。

・ 別の話になるかもしれないが、移住者の受け入れを考えた場合、「子供の教育」ということがあると考える。各産業の「仕事」に魅力があって移住を考えた場合でも、子供に対する施策も移住のポイントになる場合がある。
ぜひ、産業振興計画の中に、『教育委員会』が入ってほしいとの考えがある。次期計画に向けて参画の検討をしていただきたい。

（委員長）
・ 各分野との連携については、外部から見ていると香南市はかなり早い段階で気づかれ、取り組んできていると感じている。
分野を超えた横ぐしを刺していく部分では、確かに本日の報告ですと、分野ごとに報告いただいていますから「縦割り感」はありますが、本日の策定員会の中で共有して、「連携していけるところを探していこう」ということで開いている。
ただ、横ぐしの相手先としては、「教育」や「スポーツ」、または「健康」というジャンルが生まれてくる場合がある。
香南市の場合、産業振興計画のほかに、「人生支援計画」というものがあり、その上位にある「総合戦略」の話に結びついていくと思われる。
この話については、この 3 計画の連携が求められることから、市役所内の関係各課と連携を取りながら検討をしていく。

・ 観光ということで「中身を作っていく」「広域で取り組んでいく」という段階にあるが、ほかの分野との連携というのはどう考えるか。

（委員）
・ 香南市が「行ってみたい場所」なのかということが大事になってくる。それに紐づく自然・食・様々な要素があるのかということも重要である。
そして、実際に訪れた方々に「素敵な思い出」などが生まれたときに初めて「住みたい」に繋がり、「仕事」や「生活」「家」へと繋がっていく。
ここで必要になるのが『産業の情報』だと感じる。

・ 上記のことをふまえると、観光分野は、『香南市の定住などに繋がる『外からの入り口』の役割を担っている』と考える。
本日の策定委員会によって、より魅力的に伝えるべく、観光分野だけではなく「他分野との連携」を行いながら進めていく必要を再確認しているところである。

・ 「観光分野の担い手とは何か」を考えた場合、それは「感動体験」をした方のことではないかと感じ

ている。
この方が、SNS やロコミなどで次の方に「感動体験」を伝え、感動体験者が増えることで、「外からの入り口」が増えていくわけですから、そういった観点で行くと、この方々が「観光分野の担い手」であると感じている。

・ 観光分野としては、香南市や近隣市町村との連携による広域エリアが、他エリアよりも魅力がある場所として確立していけるように、香南市内の施設などとも連携を強化しながら、PR もできるように、取り組みを磨き上げていきたい。

（委員長）
・ 観光分野は香南市を知る「きっかけ」であり、このきっかけから香南市を知った方が「担い手」として、香南市を広めていき、産業だけではなく、香南市の暮らしなども伝えていくということで、その観点から見るとき、観光分野はやはり大切な産業であるということを改めて強く感じました。

・ 本日は平成 30 年度の取組を確認いただいて、「担い手」「人材確保」や香南市の中でどのように連携して、「香南市の強みを発信していくか」というところでご意見をいただき、その中で、各分野でこれから取り組んでいきたい内容が出てきたと思う。
また、実例などから、「発信していく」、「伝えていく仕組み」を本日の策定員会の中で共有できたと思う。そのうえで、全体のご質問や資料のわからない部分などはないか。

・ 本日頂いた各分野の報告などから、「共通する課題」などが見えてきた。
また、「共通して対応していくことができるものである」とも感じていただいたと思う。

どういった形で伝えていくかについては多様な方法があるが、今回の策定委員会では、各分野で思っている「自分たちのイメージ」や「自分たちがもっと伝えていきたいと思っているイメージ」があるということと、「担い手像が少しずつ変わっている」ということ、そして、それを「伝えていくための仕組みづくり」というワードを『香南市の産業』という文脈で作っていく必要があると感じている。

・ 順番が逆になってしまい申し訳ないが、本日の資料 2 についてわからないことや質問点を確認したうえで、お認め頂く必要がある。
ご質問はないか。なければお認め頂くということでよろしいか。

（全委員） 異議なし。

（委員長）
・ 本来であれば、はじめに確認を行うことであったが、順番が違ってしまい申し訳ない。
本日は、平成 30 年度の取組状況と各部会の報告、そして皆様からのご意見をいただいたところで、本日の会を終えたい。
まだまだ香南市のことや、産業について勉強不足を痛感したところであることから、私自身、今後も

香南市に顔を出し、市民の方、各部会の方と分野を問わずお話させていただき、香南市のことを考えていきたいと考えていますので、よろしくお願いしたい。それでは事務局にお返しする

◇ その他

・　参考資料を基に今後のスケジュールを事務局より説明。

◇ 閉　会　（田内副市長）

・　本日は長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。
本年度は第 1 期産業振興計画の振り返りと、第 2 期に向けた進め方が入ってくる。
本日の議論の中でもあったがキーワードとして、「人材確保と育成」と「各分野がどのように連携していくのか」、それはひいては「各分野、産業がいかに稼いでいけるか」ということだと思いますし、これが『第 2 期香南市産業振興計画の大きなキーワード』にもなっていく。
第 2 期香南市産業振興計画に向けての数値目標の設定も含めまして、今後も皆様方と議論をさせていただきますのでよろしくお願いします。

以　上。